

# 吹田支援校長室だより

## 教職員の皆様へ

令和3年3月23日  
第9号  
校長

### 人間は考える葦（あし）である

この言葉は誰が言った言葉であるか？教員は、教職教養で習いましたね。パスカルの言葉です。「人間は、自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。しかしそれは考える葦である」として、人間の自然の中における存在としての弱さと、思考する存在としての偉大さを言い表したものです。令和2年度はまさしく考える葦のごとく、思考する集団として様々なことを多方面から考えて乗り切ってきました。コロナは、まだまだ油断できませんので、引き続きみんなで考えて良い方向に向かいましょう。



この言葉を思い出すきっかけとなったことがあります。NHK「ここは今から倫理です」という番組です。NHKの紹介文では、20代を中心に異例の人気を誇る雨瀬シオリの異色の学園コミックをドラマ化。日々価値観が揺さぶられ続けるこの世界で、新時代の『倫理』を問う。誰も見たことの無い本気の学園ドラマ。と書いてあります。

偶然 TV を見たのですが、哲学者の言葉を高校生に伝えて、あなたはどのように考えるのか？と生徒に問いかけます。新しい生徒指導のやり方だなあという感想を持ちました。私は、高校生の時に「倫理社会」の授業では哲学者の言葉の重みがわからなかったのですが、年齢を重ねると、言葉の意味が分かるようになってきました。パスカルの言葉もそうです。

倫理社会の授業は選択制になり、今では公民として統合されていますので、倫理の授業を受けた経験がない人が多いと思います。番組の中の名言に『不安は自由のめまいだ』というのがありました。不安になるということは、あなたが今自由だということ。そこにたくさんの可能性があるということ。自由であることは善いことも悪いことも自分の判断次第でできてしまう。という解説でした。

新年度を迎えるにあたり、児童生徒や教職員は不安になることがあるかもしれませんが、でもそれはたくさんの可能性があるということととらえましょう。

番組が終わった後に問いがあります。一つ紹介します。



ヒマと多忙どちらが幸せですか